

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0171400146, 社会福祉法人会 敬聖会).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 基本情報リンク先URL) and Value (http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0171400146-00&PrefCd=01&VersionCd=022).

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部, 札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者職員が生活を共にするという考えを大切に、ゆったりとした空間であるよう努めている。
加齢による心身の変化についても事業所看護師、敷地内の協力病院と密に連携を取り出来る限り本人と家族の意向に沿って対応できるように努めている。
ケアの質の向上を目的に、職員個々のレベルに応じた研修へ参加したり内部研修を行い、スキルアップに励んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、函館市の北方向に位置する桔梗町の丘陵地にあり、2階建て4ユニットのグループホームである。敷地内には、法人グループ内の医療機関や老人保健施設、ケアハウスがあり、緑に囲まれ、函館山や市内が一望できる環境のよい場所である。運営法人は、医療法人を母体として、社会福祉法人にてケアハウスとグループホームを運営しており、当事業所は介護保険制度開始後、間もなく開設したグループホームで、24時間の医療支援体制を構築している安心な事業所である。事業所内は1フロアに2ユニットの2階建てで、廊下が幅広く玄関を挟んで、利用者が相互に行き来でき冬季間などは広いホーム内の散歩が多い。居間には畳の小さな上がりがあり、和の感じもあり、ゆったりとした寛ぎのリビングである。居室にはトイレと洗面台も備えてある。また、介護の業務記録はモバイル活用のICT化をいち早く導入し、職員の負担の軽減に配慮している。「ゆっくり、いっしょに、たのしく」の理念に基づき、笑顔で利用者ひとり一人に寄り添ったケアに努めているホームで、これからも認知症介護の事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement (self-evaluation), and Achievement (external evaluation). Rows 56-62 are visible.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をスタッフルームに貼り、ミーティングや勉強会で確認し合い、常に念頭に置きながらサービスにあたっている。	事業所独自の理念は、職員で作成したもので、「ゆっくり、いっしょに、たのしく」として、事業所内に掲示し、会議や勉強会の時に確認するなどして、職員間で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	2か月に一回の運営推進会議に町会役員の方に参加して頂き、意見交換を行っている。	町内会役員が運営推進会議の参加しており、意見交換など定期的に行っている。また、丘陵地の敷地内には、系列施設があり、行事も合同で行うなど利用者の交流がある。ボランティアや実習生の受け入れなどもあり、地域との交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町会役員の方に参加して頂き、グループホームでの生活の様子や支援の内容を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	花見や夏祭りを運営推進会議に取り入れ、行事に参加した際の意見や要望等を聞き、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は、地域包括支援センター担当者や家族、町内の方が参加して、定期的開催し、運営状況の報告や行事の意見や要望を聞く機会となっており、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム長や各主任が窓口となり、市町村担当者との連絡を取り合い、サービスの状況等を伝えている。	空き室や利用者の状況報告など定期的に行っており、介護保険担当者やケースワーカーと情報共有し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯の為施錠しているが、その他は開錠している。身体拘束の研修に参加したり、ミーティング時に十分に話し合い拘束は行っていない。	身体拘束をしないケアの指針やマニュアルを整備し、外部の研修会に参加し、ミーティング時に検討するなどして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、利用者の安全上のセンサーマット使用は、介護計画に組み込み同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングで虐待について話し合い、スタッフが互いに意見を交わし防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、そこで学んだ事を勉強会、ミーティング等で共有し、必要性のある利用者があった際は対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、退居時に不安や疑問点を話せるよう、家族や利用者のペースで話し合いを進め、わかりやすい説明を行えるよう努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	三か月に一回会報を送付したり、来訪時や運営推進会議でも意見を頂いている。その意見を反映出来るように努力している。	運営状況は、年4回ホーム会報誌を発行して、家族へ報告している。家族からの意見や要望は、玄関に意見箱を設置し、アンケート調査をしており、来所時や行事の際に聞き取るなどして、運営に反映している。	年4回ホーム便りを発行し、家族へ運営状況を報告しているが、利用者ひとり一人の生活状況も報告できるよう写真付きの手紙などに工夫し、運営推進会議議事録と併せて家族へ運営状況と生活状況を報告するような工夫に期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや毎日の申し送りの際に機会を設けており、それを反映出来るよう努力している。	ユニット会議は月1回行っており、主任ミーティングも定期的に行っている。また、個人面談は、必要に応じて随時行うなど、コミュニケーションに心がけ、職員の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップ出来る研修や、勉強会への参加を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のレベルに合った研修への参加を促したり、勉強したい内容の希望を聞きトレーニングを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修会にて交流する機会を設け、お互いに事例について話し合ったり、意見を交わしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際には、会話の中から本人が思っていることを少しずつ聞きながら、信頼関係が築けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談だけでなく、電話にての相談や来訪時に不安や求めている事を聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望に添えるようスタッフで話し合い、どのようなサービスが良いのかを話しながらサービス提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で不十分な所はサポートしながら本人の得意な事や知識を引き出し支え合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告を行い、生活歴を踏まえながら、ケア方法を一緒に考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないよう、面会に来ていただいたり、また来て頂けるよう声がけしている。	友人や知人の来訪や、敷地内の施設の利用者の来訪もあり、馴染みの人との交流がある。利用者が以前から通っていた理髪店やカラオケ喫茶など馴染みの店へ職員が同行して関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置を工夫し、関わり合いができ、孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もお見舞いに行ったり、家族の相談にのったりし、関りを持っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関りの中から希望を聞き、困難な場合は家族へ情報を求めたり、スタッフ間で情報を共有しながら支援している。	話せる利用者が多い為、アセスメントシートを活用して、日々の関わりの中からひとり一人の思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合は、家族から情報を把握するなどして、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴やバックグラウンドを詳しく探り、必要時には家族やそれまで関わっていたケアマネ等に情報をもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を細かく記し、申し送り等スタッフ間で情報を共有しながら現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングにて評価し、家族とも話し合いながら四か月に一度介護計画を立てている。	月1回のミーティングで、利用者ひとり一人を評価して、介護計画の原案を作成し、担当者会議などで家族と打合せして、意見や要望を聞き介護計画を作成している。見直しは4ヶ月に毎行っている。また、日常の介護記録は、モバイル等のICT活用で合理的に行っており、職員の負担軽減に配慮している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録は関りで記入し、見直し時に活かしている。細かく記録し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族やご本人と話し合いながら、出来るだけ希望に添えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張売店の利用や、病院の売店、近隣のスーパーへの買い物へ行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特変時にはすぐに医師から家族へ病状の説明を行ったり、今後のことを話す機会を多く設け、適切な医療を受けられている。	専門医等のかかりつけ医は、定期的に職員が同行して受診している。主治医は、敷地内に法人グループの医療機関があり、常勤の看護師が同行受診しており、24時間の医療支援体制で適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルや状態の変化があった際は、すぐ看護師へ相談し、指示を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	頻繁にお見舞いへ行き、状態や今後の治療について医師や看護師等と定期的に話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	医師と相談し、家族ともその都度話し合っている。看取りの指針や必要な説明事項を用意し、必要時に行っている。	重度化や終末期の対応については、契約時に説明し、重度化した時に再度打ち合わせして同意を得て、家族・主治医・看護師・職員と連携して支援しているが、現状では最終的には医療機関への意向が殆どである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングで看護師より勉強会を行い、知識を学び、急変時に備えている。マニュアルも作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと定期的に訓練し、訓練時には他施設と協力している。	避難訓練は、消防署の指導の下、敷地内の隣接した施設の協力により、定期的に年2回実施している。備蓄や備品を整備して災害対策を行っている。	避難訓練は定期的実施しているが、火災時の他の台風などの自然災害や停電などの想定も検討して、敷地内の系列施設と合同で実施することを期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失敗した時やわからないような時は他者に気付かれないようフォローしたり、場所を変えたりしている。	人格の尊重とプライバシーの確保については、接遇マナーの勉強会を行って、利用者に対する職員の声掛けや誘導方法などを研修指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい際は選択肢を与えたり、きっかけ作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	決まった時間ではなく、好きな時間に入浴出来るよう本人のペースに合わせてセッティングしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には早めに声をかけ化粧や身だしなみを整えて頂いたり、自分で着たい服を選べる時間をとるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に配膳、下膳、盛り付け等行い、食事の際は会話が弾むよう食席を工夫している。	食事は、ご飯と味噌汁を事業所で用意し、副食は隣接施設からの配食となっている。利用者は、職員と一緒に配膳や後片付けなど行っている。事業主催の夏祭りでは、屋台のおでんなどがあり楽しみな様子である。外食は人気の回転寿司などユニット毎に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人にあった食事量や水分量を把握し、嫌いな物も好んで食べられるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に合わせて、舌ブラシ、歯ブラシ、スポンジを使用しケアしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、定時のトイレ誘導ではなく、その日の状態やサインに気付き対応している。	居室にトイレと洗面台が設置されている。利用者個々の排泄パターンのチェック表を作成して、職員間で共有し、ひとり一人の仕草や表情などで誘導し、自立したトイレでの排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやヤクルト等乳製品を飲用して頂き、散歩等体を動かし予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	いつでも快適に入浴出来るよう準備をしている。	浴室は広く、浴槽も2人が入浴できる程の大きさである。入浴は週2回以上だが、利用者の状況に応じて、朝6時過ぎに入浴する利用者や仲の良い利用者が2人で入るなど利用者の状況に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を気にせず、個人のタイミングに合わせて、湯たんぽで布団を温めたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を確認し、服薬変更の場合には状態観察をしている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業等その人にあった趣味活動が行える場所作りをし、買い物等にも出かけ楽しめる時間を作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法事やお墓参りには家族へ協力してもらいながら行き、買い物やドライブ等へも出かけている。	丘陵地の敷地内や隣接した施設、4ユニット内の行き来など季節に合ったそれぞれの散歩を日常的に支援している。外出行事では、リンゴ狩りや紅葉狩り、元町地区の観光などを行っている。法事やお墓参りは家族の協力で支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理出来るか見極め、出来る方にはお金を渡して買い物等出来るだけ支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物が届いたときはスタッフルームにてご本人からお礼の電話をして頂いたり、希望があればはがきを手渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような飾りつけをし、エントランスにもイベントごとにお雛様やクリスマスツリー等を飾る事で共有スペースとして活用されている。	共用空間は、広くゆったりしており、採光や風通しもよく、丘陵地にあるため、広い窓からの眺望もよく、季節を感じられる空間である。季節の飾り物や自然の飾り物もあり、清潔感を感じて居心地よく過ごせるよう工夫している。また、玄関横には菜園があり、作業が利用者の楽しみな手伝いとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	離れた場所にソファを置きいつでも一人になれる場所を確保している。二人掛けソファは対面出来るようにし、みんなで談話しやすいようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを頂けるよう説明し、本人が過ごしやすいようにしている。	居室には、トイレと洗面台が設置され、押し入れもあり、配慮されている。入口には、利用者の写真付きの表札が掲げられ間違いが無いよう工夫している。利用者が、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室出入りに写真や表札を下げ自分の居室をわかりやすくしたり、その人にあった配置をしている。		